

### 第3セッション:「まつざきワークショップ」10周年記念特別セッション

#### 《「まつざきワークショップ」が拓く世界:中央アジア学の新たな展開》

※本セッションはNIHUプログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点との共催

新 免 康

第3セッションは、「まつざきワークショップ」が今回で10周年を迎えることを記念して、「まつざきワークショップ」と関わりの深い研究者たちによる特別セッションとして企画されたものである。小松久男の基調報告の後、堀直、吉田世津子、新免康による3つの報告が歴史学・人類学の方面から行なわれた。

小松久男「中央ユーラシア史研究の展望」は、日本を中心に、中央ユーラシア史研究の回顧と展望について述べたものであった。第一に、ソ連崩壊後、中央ユーラシアに新しい地域的な枠組みが創出されるにともない、新しい研究の潮流が世界的に出現してきたことに触れた。第二に、1970年代以降の日本における中央ユーラシア史研究を回顧し、とくに近年の新しい動向について指摘した。第三に、上記の諸点も勘案しつつ、ロシア・ソ連、清朝・中国という「帝国」の構造と性格へのアプローチ、スラブ研究との接合によるスラブ・ユーラシア研究の可能性など、今後の研究の展望を提示し、その中で日本の研究者が積極的に研究成果を発信していく必要性を強調した。

堀直の報告「回疆経済の構造—農・牧・商の間からの視点—」は、自らの社会経済史研究の蓄積を基礎としつつ、従来扱われることのなかったウイグル人居住地域における手工業の歴史的状況について論じたものである。第一に、問題の所在として「回疆」社会経済史研究の現段階を整理して、商業史分野の考究が限定的であり、手工業に対する検討に有望性・意義があることを指摘した。第二に、満洲語档案や漢語編纂文献などの清朝史料を利用し、清朝の「回疆」統治の初期段階における職人の種類に関する記録や、19世紀初頭の資産没収の事例におけるその資産の種類・個数に関する詳細な記録、漢語文献に記載された手工業に関する統計データなどに基づきつつ、手工業の具体的な実態について検討した。第三に、19世紀半ばのウイグル人詩人の作品や、各種のリサーラ（職業別ハンドブック）、そして現代のエスノグラフィなど、過去から現代へと至る現地語の諸文献に掲

げられた職業の種類を整理して紹介した。その上で、第四に、このような手工業の展開の背景として、社会経済の構造に関する理解を提示した。

吉田世津子の報告「葬式の変容—北部クルグズ（キルギス）農村・イスラームの人類学的動態研究に向けて—」は、北部クルグズ農村での調査に基づき、イスラームの慣習的な実践について考察したものである。第一に、中央アジアの人類学的イスラーム研究の動向について整理して示したうえで、第二に、調査地の概要として、クルグズ人のイスラーム化やクルグズスタンに関する基本的な情報を交えつつ、主に調査対象となった村の基礎データと体制変換下の基本的状況について紹介した。第三に、クルグズスタンにおけるイスラーム政策とその下におけるイスラームの状況について説明した。第四に、北部クルグズ農村において執り行われている葬式とくに焦点を当て、それを最大規模の人生儀礼と位置づけた上で、その具体的なプロセスに関するデータを掲げるとともに、その中におけるイスラーム宗教職能者「モルド」の活動のあり方について検討した。その上で、第五に、葬式の具体的な事例に関する分析を通じて、イスラーム復興をはじめとする、現在のクルグズ社会におけるイスラームの様相について考察を加えた。

新免康「新疆への漢族の移住とウルムチの歴史的変容」は、19世紀以降の新疆の歴史的状況の中で、現在の新疆ウイグル自治区の自治区都であるウルムチ市の変容のプロセスを概観したものである。まず現在のウルムチ市について紹介した上で、清朝時代におけるウルムチの形成と発展の概要を辿るとともに、新疆省設立以後の時代における都市の内部構成・民族構成の具体相について検討した。さらに、中華人民共和国成立後における変化、とくに漢族の大量移住による顕著な都市の拡大、「改革開放」後の劇的な都市景観の変貌などの注目すべき側面について言及した。

(中央大学文学部)